

学力確認結果の要旨

報告番号	理工論 第73号	氏名	半田直人
審査委員	主査	仲谷 英夫	
	副査	佐藤 正典	山本 啓司
		鏑本 武久	

平成28年2月3日午前10時00分～11時15分に実施された学位論文発表会においては、Power Pointを使用し、約50分の口頭発表が行われた。発表の内容、構成はしっかりしておりよく工夫されていた。質問に対する回答も適切になされた。以下に、主な質問とそれに対する回答をします。

Q：Elasmotheriini族属・種未定種のdiagnosisは何か？

A：歯冠セメントを持つ中型の種で、他のElasmotheriini族とは頬歯の特徴に差があり、下顎骨が低く、直線的であることが、この分類群のdiagnosisである。

Q：同じ東アフリカの他の後期中新世の化石産地ではサイ科化石の産出が少ないのはなぜか？

A：他の哺乳類化石は特に少なくないので、サイ科の動物が少なかった可能性がある。また、研究対象地域では、他産地と比べて、精密、網羅的な化石採集が行われているので、それらの影響もあると考えられる。

Q：現生でアフリカ以外のサイにはどのようなものがあるのか、またそれらの系統関係は？

A：アジアには2属のサイがおり、アフリカのシロサイ、クロサイと、アジアのインドサイ、ジャワサイは系統関係が異なることが分かっているが、アジアのスマトラサイの位置づけは分子の研究によってもアフリカのものに近い、また、アジアのものに近いなど位置づけがはっきりしない。

Q：前期～中期中新世に出現して、後期中新世まで、数百万年間にわたって産出が知られていない同一種*Chilotheridium pattersoni*があるのはなぜか？

A：頬歯の形態から同一種としたが、前期～中期中新世のものは頭骨が残っており、その特徴も記載されているが、後期中新世のものは、頭骨が残されておらず、頭骨の特徴は不明である。

Q：サイ科化石からみて、ナムルングレ層およびナカリ層での古環境の違いはないのか？

A：他の哺乳類化石の頬歯形態にみられるような両層の環境差は、はっきりしないが、カバ的生態を持つ*Brachypotherium*属などは湖沼性の環境を示しているといえる。

外国語の学力については、学位論文を英文で執筆しており、さらに学位論文発表会に先立って、学位論文に関連した英文の論文の内容について筆答による説明を求めた結果、的確な回答がなされた。

以上の結果から、審査員4名は申請者が十分な研究能力と語学力を有し、博士(理学)の学位を与えるに足る資格を有するものと認定した。